

台湾はただいま総選挙の真っ最中。代わり映えない顔ぶれにムードはいま一ツだが、政党間の攻め合いは熱気を増す一方。投票日は3月20日だ。

いったい、台湾はどうなっているのか、台湾をじっくりと見てみたいという向きもあるだろう。お奨めしたいのは海から入るルートである。



へて基隆に至る航路だ。1万5000トンを越す大型貨客船で石垣港を出ると、およそ4時間半で、甲板に出ている人からおおつ」という声があがると、「どこ？ どこ？ と、みんなは海を見渡すが、どこにも島影はない。実は島影は、思いのほか、見上げるような空中に浮かんでいるのである。沖縄諸島、先島諸島と、ほとんど山のない平べったい島を見つけてきた人

にはちょっとびっくりするほど、台湾という島は、高い。見えているのは花蓮、宜蘭あたりの中央山脈の切れ端だが、それでも3000メートルを超す。台湾は実に立体的な、ボリュウムのある島だということがわかる。わかたからといって、なにもおまけはつかないが、21世紀に至っても、あの島になお12の原住民族が生存していることや、米軍が台湾を見過こしていきな

島の人びとは、出稼ぎも、買出しも、進学も、まず台湾へと渡ったという。「日本最西端の郵便局」に立ち寄り、「最西端の食堂」で八重山そばを食し、さらに歩くと「最西端」の美容院にも出くわす。この店を開いた美容師さんも台湾で修行したと言い、役場の前には、台湾花蓮市との姉妹都市締結を記念した立派な碑が立っていたりする。台湾からは、蓬莱米、さとうきび、パ

## 第十六回

柳本通彦

# 台湾が見える島

り沖縄に進攻したのも、なんとなく領けるのである。

実は、日本には陸から台湾が見える島がある。東経123度00分に位置する与那国である。

この島から、台湾は111キロ。この島の西端にある西崎には、日本国最西端之地の碑があつて、台湾を見るためにわざわざ展望台も建てられている。目の前の海に国境が引かれるまでは、

インなどいろいろなものが出てきた。農作業に使う水牛だつて、台湾から導入されたそうで、いいものはなんでも台湾からきたよと古者は目を細める。台湾はほんとうに宝の島だったのだ(台湾の人は自らの島を宝島と呼んでいる)。

周囲わずか28キロの小さな島に泡盛の工場が3軒もある。アルコール成分60度に達する花酒は、与那国にだけ

やなぎもと・みちひこ 京都市生まれ。著書に「台湾先住民・山の女たちの聖歌(現代書館)」「台湾革命(集英社新書)」など。99年度「潮賞」ノンフィクション部門優秀賞受賞。



与那国西崎・日本最西端の碑。この石も台湾から運ばれた

認められた特例である。そして島固有の言葉や民謡、織物はもちろろん、ヨナグニウマも、ヨナグニサンと称する世界一の巨大な蛾も生息する。2000キロ離れた東京から見れば、当地はまさに辺境の地であるうが、この島は、国と号するだけの歴史と風格を具えているのだ。

天気によければこの西崎から、台湾北東部が見渡せるといふ。なんだか、総統選が醜い中傷合戦にはまり込んだ格好の「宝島」は、いま与那国からのよに見えているのだろうか。